

よりよい外国語学習環境の構築を目指して

太田 達也

私が従事している外国語教育学という学問は、第二言語習得研究や言語学、教育学、心理学など、外国語教育に関連する諸科学との交点に構築されつつある、比較的新しい学際的な分野です。外国語教育学では、外国語教授法や教材開発、言語習得に関するテーマだけでなく、学習環境デザイン、カリキュラム、言語政策、教員養成など、外国語教育についての広範囲に渡る問題を扱います。中でも私が現在特に取り組んでいるテーマは3つあります。

1つめは、日本語を母語とするドイツ語学習者の作文プロセスに関する実証的研究です。教師というものはいったいどの程度、学習者の作文プロセスを正しく「理解」しているのでしょうか。この疑問に答えるためには、実際に学習者がどのようなプロセスを経て作文を行っているのかを記録し、その特徴と問題点を分析する必要があります。被験者となる学習者には、考えていることをすべて声に出しながら作文してもらいます。こうして、ふだんは覗き見ることのできない学習者の「頭の中」を少しでも垣間みようというのがこの研究の狙いです。

2つめは、デジタル学習環境の構築です。近年の情報通信技術の発達により、外国語学習

私の研究



おたつたつや
外国語学部ドイツ学科 准教授

専攻分野「外国語教育学」ドイツ圏専攻(外国語学、言語学)専攻「ドイツ語圏文化と社会」(ドイツ語圏の作文プロセスに関する実証的研究)。

経験分野「ドイツ語圏と学生とのコミュニケーション」を研究し、外国語学習環境の構築と関係する実証的研究。ドイツ語圏文化と社会(ドイツ語圏の作文プロセスに関する実証的研究)。

主要な著書「N&K CDブック ライトドイツ語 から文で覚えるドイツ語」(共著、日本放送出版協会)、「ドイツ語圏文化と社会」(共著、日本放送出版協会)、「ドイツ語圏文化と社会」(共著、日本放送出版協会)、「ドイツ語圏文化と社会」(共著、日本放送出版協会)。

主要な担当科目「ドイツ語」(専攻、日本語圏文化と社会)、「ドイツ語圏文化と社会」(専攻、日本語圏文化と社会)、「ドイツ語圏文化と社会」(専攻、日本語圏文化と社会)、「ドイツ語圏文化と社会」(専攻、日本語圏文化と社会)。

はまさに「いつでも、どこでも」できる環境が整いつつあります。例えばあなたはスマートフォンにいます。すると、あなたは持っている端末の画面に自動的に「レストランでの会話例」が表示される、といったことも、もはや夢の話ではありません。私は現在、他大学の外国語教育研究者や情報技術研究者たちと共同で、こうした最新の技術を利用した外国語学習環境の構築研究に携わっています。

3つめは、外国語(主にドイツ語)の教員養成・教員研修の現状に関する調査とその改善に向けての提言です。外国語教育をよりよくしていくためには、何よりも教員養成・教員研修の質的向上が最重要課題と言えます。外国語教育学の研究者として、この問題に積極的に取り組んでいくことも、私にとって重要な仕事であると考えています。



経済演習・中矢ゼミの機関誌「スバル」

中矢 俊博

中矢ゼミには、20年続いている「スバル」という名の機関誌がある。今年発行された「スバル」第20号を見ると、私の巻頭言に続いて、3年生の1年間のゼミ活動が紹介されている。5月のゼミコンバとレクリエーションから始まって、9月の夏合宿、11月の交換討論会、1月の新年会、3月末の春合宿、といった年間行事が続く。

通常の授業では、春学期は、内閣府から出された「経済財政改革2008」や竹中平蔵氏の「戦う経済学」などの教材を用いて、ゼミナール形式の発表や討論を行った。また月に1度、私が指定した本を読み書評を書くことで、文章力の強化も図った。秋学期は、11月の交換討論会を成功させるため、学生が主体的に行動する。名古屋大学の学生と相談して、討論のテーマなどを選定し、それらを実行に移す。パワーポイントでのプレゼンテーションを成功させるために、用意周到に準備する。すべては学



私のクラス



なかやとしひろ
経済学部経済学科 教授

専攻分野「経済学」(経済学専攻)。

経験分野「ドイツ語圏の経済学」。

主要な著書「ドイツ語圏の経済学」(共著、日本放送出版協会)、「ドイツ語圏文化と社会」(共著、日本放送出版協会)、「ドイツ語圏文化と社会」(共著、日本放送出版協会)。

主要な担当科目「経済学」(専攻、日本語圏文化と社会)、「ドイツ語圏文化と社会」(専攻、日本語圏文化と社会)、「ドイツ語圏文化と社会」(専攻、日本語圏文化と社会)。

生が行い、私はただ見るだけである。その合間を縫って、私は学生一人ひとりと面談する。彼らには自分は何が得意か、将来どういうことをやりたいかを尋ねる。9月の夏合宿で4年生の就職体験報告を聞いているの、皆心構えは出来ている。11月の交換討論会が終わったら、就職戦線に突入である。「スバル」には先輩の連絡先が書いてあり、学生はそれを使って就職活動を行う。結果は、いつも私が驚くほど良好である。

「スバル」には、在学生だけでなく、卒業生からのエッセイも掲載する。毎年10篇ほどのエッセイが集まる。もちろん、4年生が書いた卒論の概要も掲載する。彼らの卒論は、私の研究室の書棚に置いてあり、3年生はいつでも借りて読める。私は卒論を11月末までに仕上げようという指導し、私のチェックが済んだ卒論は、12月から教務課に提出される。1月の新年会には、在学生に加えて、卒業生も参加する。今年は第1期生も2人参加して、大盛況であった。この光景が「スバル」の表紙を彩る。中矢ゼミになくてはならないのが、この機関誌「スバル」である。

International Friendship

IFCU*理事会における学生通訳サポートを経験して

高橋 寛規(外国語学部スペイン語アメリカ学4年)

将来、私は自分の語学力を生かした仕事をしたいと思い、このIFCU理事会の学生通訳サポートに応募しました。最初の仕事は世界各国から訪れるIFCU理事の方々を新中部国際空港でお迎えし、名古屋にあるホテルにご案内するということでした。私はスペイン語圏出身の理事の通訳担当で、自分のスペイン語能力を生かす絶好の機会であると安易な気持ちでいたのですが、いざ一日中、通訳として、付きっきりで日本語とスペイン語を交互に話すうちに、通訳には語学に加え、コミュニケーション能力が不可欠だということに認識させられました。緊張からか、声が小さくなることもあり、理事の方々から指摘されることもありましたが、そんな中でも、なんとか言葉頑張っていました。しかし、そんな中でも、なんとか言葉頑張っていました。しかし、そんな中でも、なんとか言葉頑張っていました。



むよ」と言われ、本当に感激しました。今回の経験を通じて、通訳という仕事に改めて興味をわき、近い将来、国を問わずプロの通訳になれるらと思っています。

*「IFCU」(International Federation of Catholic Universities) 1924年に l'Universita Cattolica del Sacro Cuore (イタリア、ミラノ) と the Katholieke Universiteit Nijmegen (オランダ、ナイメーヘン) により、共通の関心事における特定の討論を目的とした世界的カトリック大学連盟が構想された。1948年ローマ教皇庁の法令を経て、1949年にはローマ教皇ピウス12世により正式に承認を受ける。1965年には現在のIFCUが成立した。1967年にはUNESCOにも承認される。現在、国連(本部:ニューヨーク)や世界人権委員会(本部:ジュネーブ)、UNESCO(本部:パリ)などの諸機関における諮問機関的地位を保っている。全世界で約200の大学、機関が加盟している。ミカエル・カルマノ学長は現在IFCU副会長。



Information

◆ 2009年度 学長表彰

卒業予定者のうち品行方正で、学業あるいは課外活動で特に優れた成績を修めた学生、または特に顕著な善行が在学中継続した学生31名に、その努力と栄誉を称え、3月19日、学長から表彰盾と副賞が手渡された。

【人文学部】	7名	【法学部】	3名
【外国語学部】	7名	【総合政策学部】	4名
【経済学部】	3名	【数理情報学部】	4名
【経営学部】	3名		

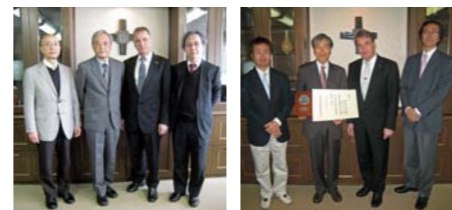
◆ 2010年度 学部長表彰

年度ごとに品行方正で学業に優れた成績を修めた学生を表彰する学部長表彰。今回は124名が受賞した。受賞者の昨年1年間の努力を称え、表彰式が人文学部は6月16日、外国語学部・経済学部・経営学部・法学部・情報理工学部／数理情報学部は5月19日、総合政策学部は5月12日に行われた。

【人文学部】	21名	【経営学部】	14名
【外国語学部】	24名	【法学部】	15名
【経済学部】	15名	【総合政策学部】	21名
【情報理工学部／数理情報学部】	14名		

◆ 名誉教授称号授与

今春退職された人文学部 美濃部重克教授(2010年1月23日逝去)、外国語学部 高橋寛二教授、横田忍教授、法学部 友岡敏明教授、情報理工学部 伏見正則教授に対し、その功績を称え名誉教授の称号を授与した。授与式は3月24日(伏見正則氏)、4月2日(高橋寛二氏、横田忍氏、友岡敏明氏)、4月28日(美濃部重克氏・奥様が代理出席)、学長室において行われた。



各方面で活躍する本学卒業生をリレー形式で紹介していくプレティン版「南山のDNA」シリーズ、第9回となる今回は、(株)坂角総本舗でご活躍の山田弥生さんです。

私は現在、お菓子を製造・販売する会社で商品企画の仕事をしています。おかげさまで、今年で120周年を迎えた老舗。でも、もっと多くの方に使ってもらうには、こういう商品があったらいい! こう変えたいの! その思いを企画として提案するのが私の仕事です。

大学時代は日本文化学科で日本の古典文学を学んでいた私。古典なんて、社会に出たら全く使えない!? いえいえ、そんなことはありません。古典の研究は、ひとつのテーマを持って調査し、ポイントになる事実を拾いながら、課題を見つけ出し、自分なりの答えを提案する。その考え方は、商品の企画と基本的に同じなのです。一つのことに関心を持って向き合ったら提案する事に、ジャンルの違いはあまり無いのではないかと。

大学生活の中で、社会に出たときのために何かしておかなければ、と焦る方もいるかもしれませんが、無理に興味のない資格をたくさん取るよりも、面白そうと思ったことに全力で打ち込むのも大きな財産になると



◆ 退職

2010年3月31日付

●人文学部
教授 美濃部重克

●外国語学部
教授 高橋寛二
教授 REY, Felisa
教授 横田 忍
准教授 中村元哉
教務助手 森 久子

●情報理工学部
教授 稲垣直樹
教授 伏見正則
教授 田中 豊
講師 瀧美紀寿
●人間文化研究科
GP嘱託講師 宗像 孝

◆ 2010年度 新任用教育職員

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)

◆ 2010年度 学長表彰

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)

◆ 2010年度 新任用教育職員

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)

◆ 2010年度 新任用教育職員

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)

◆ 2010年度 新任用教育職員

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)

◆ 2010年度 新任用教育職員

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)

◆ 2010年度 新任用教育職員

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)

◆ 2010年度 新任用教育職員

●人文学部
教授 岡田順一(専攻分野:教育学、教育経済学、教科教育学)
講師 KUCICKI, Janusz(専攻分野:神学、新約聖書学)
GP嘱託講師 濱田 祥子(専攻分野:臨床心理学)

●外国語学部
准教授 ESCANDÓN, Arturo(専攻分野:スペイン語教育)
准教授 泉水浩隆(専攻分野:スペイン語学)
●経済学部
教授 林 順子(専攻分野:日本経済史)
講師 吉見 太洋(専攻分野:国際金融論)



未来へつづく道。

NANZAN UNIVERSITY

Campus Topics

第51回 上南戦 戦績 南山大学総合優勝

6月4日から6月6日の3日間にわたり、第51回上南戦(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)本戦が本学を会場校として開催された。3日間ともに快晴の日が続き、各種競技にて熱戦が繰り広げられた。結果は本学18勝、上智12勝、引分1、本学の総合優勝で幕を閉じた。	サッカー 南山 0- 2上智
洋弓(男子) 南山 3426-3491上智	洋弓(女子) 南山 3031-3321上智
柔道 南山 3- 4上智	バドミントン(男子) 南山 3- 2上智
バドミントン(女子) 南山 5- 0上智	アメリカンフットボール 南山 14- 14上智
剣道(男子) 南山 4- 1上智	剣道(女子) 南山 2- 1上智
アイスホッケー 南山 5- 2上智	軟式庭球(男子) 南山 5- 4上智
軟式庭球(女子) 南山 3- 0上智	硬式庭球(男子) 南山 5- 4上智
硬式庭球(女子) 南山 0- 5上智	準硬式野球 南山 2- 8上智
水泳 南山 209- 328上智	ラグビー 南山 0- 26上智
ハンドボール(男子) 南山 29- 24上智	
卓球(男子) 南山 4- 3上智	

第1回大会からの通算成績:南山14勝 上智32勝 引分5



上智大学×南山大学「合同進学相談会@上南戦」

6月5日、第51回上南戦の開催に合わせて、本学名古屋キャンパスC棟食堂において、受験生を対象に、上智大学×南山大学「合同進学相談会@上南戦」が開催された。

上智・南山両大学のスタッフ・在学生による相談コーナーや上南戦観戦ツアーなどがおこなわれ、来場者は約300名にのぼった。来場した高校生たちはカトリックの絆に結ばれた両大学の熱い闘いを感じつつ、在学生が語る学生生活や受験対策に熱心に耳を傾け、また過去問題閲覧コーナーでは真剣な眼差しで見入っていた。キャンパスツアーを兼ねた上南戦観戦ツアーでは、



Feature Article

特集

「多文化社会における英語による発信力育成 ーグローバル時代に活躍するための多面的学術力向上プログラムー」

南山大学外国語学部英米学科 平成21年度「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」(文部科学省)採択プログラム



平成21年度「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」(文部科学省)に、南山大学外国語学部英米学科が申請した「多文化社会における英語による発信力育成ーグローバル時代に活躍するための多面的学術力向上プログラムー」が採択された。このプログラムは学生と教員が力を合わせることで、学生の「英語による発信力」「企画運営力」「異文化理解力」の育成を達成し、「学術力の向上」を目指すものである。



概要

日本人は一般的に、自ら主張するということが少なく、さらにそれが外国語である英語となると、極端に寡黙になってしまうことが多い。本プログラムでは、国際ワークショップや国際シンポジウムを通じて「実体験に基づく異文化理解」を深め、自信を持って自らの意見を発信していける学生を育てる。さらに、それらの国際ワークショップや国際シンポジウム、卒業論文中間発表会を学生中心に企画・運営させることによって、企画・運営力も育成し、単に人前で英語が上手に話せるというのではなく、自ら情報発信の機会を生み出していける学生を育てる。

また、大学教育における集大成である卒業論文については、中間発表会の模様の動画と電子ジャーナル化した卒業論文の両方をインターネットを通じて世界へ発信することによって、話し言葉と書き言葉の両面で情報発信を行う。このようにグローバル時代に活躍するために必要な「総合的な学術力向上」を多面的に目指す。

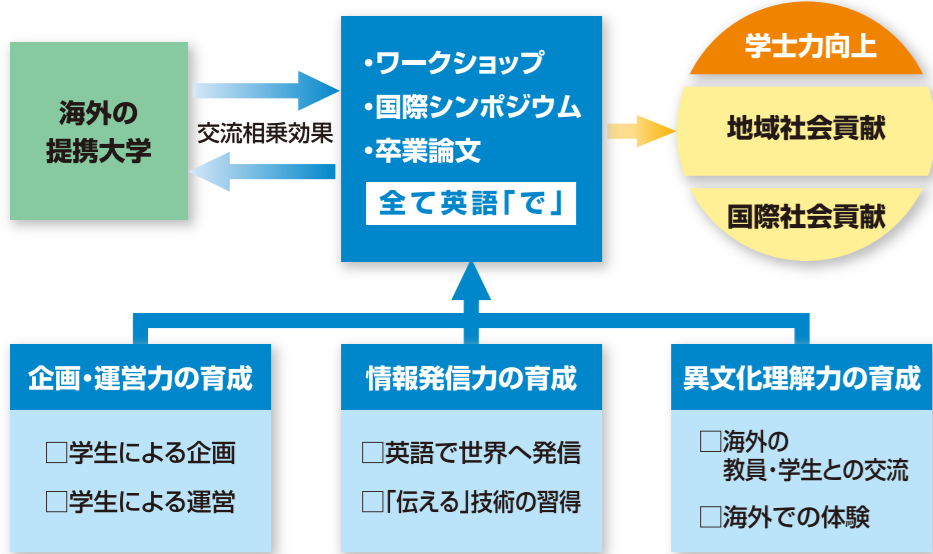


目標

本プログラムには、三つの大きな柱がある。それは「企画・運営力の育成」、「情報発信力育成」、「異文化理解力の育成」。これらの力をもって、学術力の向上をはかり、地域社会へ貢献し、また国際社会にも貢献する人材を創出していこうというものである。これは、英米学科が掲げる「多文化共生が進むグローバル社会の第一線で活躍できるよう、すぐれた語学力に加え、十分な異文化対応能力と国際理解力を備えた人材を育成すること」という目標とも合致している。

コアプログラム

- 国際ワークショップ
提携大学から教員および、学生を招聘し、全て英語で討議する。
- 国際シンポジウム
本学から教員および学生を提携大学に派遣し、すべて英語で討議する。
- 卒業論文
英語による中間発表 → 動画配信を行う
英語による論文執筆 → 電子ジャーナルとしてインターネットで公開



国際ワークショップ

■ 第1回 国際ワークショップ
日時:2009年11月20日(火)
会場:南山大学B棟21教室
講師:Prof. Kunio Ishida (南山大学客員教授)
"Jewish Migration and International Politics in the 20th Century"
Dr. Erin Chung (Johns Hopkins University)
"Immigrant Incorporation in Japan"
Dr. David Mayer (南山大学名誉教授)
"Japanese Immigrants, Baseball, and the Chunichi Dragons"

■ 第2回 国際ワークショップ
日時:2009年12月15日(火)
会場:南山大学K棟25教室
講師:Mr. Jonas D. Stewart (名古屋アメリカンセンター館長)
"Meet An American Diplomat"
戦後、日本にとってアメリカ合衆国は重要な軍事同盟国であり、経済的にも深いつながりを築いてきた。アメリカの動向が、日本に大きな影響を及ぼす中で、2009年、日本とアメリカでCHANGEが起こった。アメリカではオバマ政権が、日本では鳩山政権が発足、ワークショップを通して、このCHANGEでアメリカはどこへ向かうのか。そして、日米関係はどのような形を取ろうとしているのかを考察した。

* 詳細は以下の南山大学英米GP Webページをご覧ください。(国際ワークショップの様子が動画でご覧いただけます)
⇒http://eibe-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html



運営体制

企画・運営を行う学生と教員が力を合わせて運営することにより、学生の持つ可能性を最大限にまで引き出すことができると考えている。教員組織の中の情報発信担当は、本取り組みで新たに雇用した嘱託講師がその任に任じられ、プログラム全体を見渡しながら情報発信を促進する、もし本の作成にたえるならば、編集者的な役目を果たす。



News

2010年度オープンキャンパス



2010年度オープンキャンパスが7月18日(日)、名古屋・瀬戸両キャンパスで同時開催される(当日は両キャンパス間で無料シャトルバスを運行します)。模擬授業、学術説明会、河合塾による入試徹底分析、学生スタッフによるキャンパスツアーなどを予定しているほか、相談コーナーでは、学術相談、留学相談、奨学金

就職支援・キャリアサポートプログラム

本学では、主に1・2年次を対象としたキャリアサポートプログラム、2~4年次を対象としたインターンシップ、3・4年次を対象とした就職支援

- 就職支援プログラム(予定)
- 7/3-10 グループ選考対策講座「コミュニケーション能力の習得」(名古屋キャンパス)
 - 7/5 マスコミセミナー1「放送・新聞」(名古屋キャンパス)
 - 7/7 エアラインセミナー(名古屋キャンパス)
 - 7/12 マスコミセミナー2「出版・広告」(名古屋キャンパス)
 - 7/14 エアラインセミナー(瀬戸キャンパス)
 - 9/22 第2回 就職ガイダンス(名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス)
 - 9/29 就職講座5「自己PR」(名古屋キャンパス)
 - 10/6 就職講座5「自己PR」(瀬戸キャンパス)
 - 10/6 就職講座6「志望動機」(名古屋キャンパス)
 - 10/13 就職講座6「志望動機」(瀬戸キャンパス)
 - 10月~11月開催予定 業界・職種研究会
 - キャリアサポートプログラム(秋・予定)
 - 10/13 自分発見!講演会(瀬戸キャンパス)
 - 10/20 一般常識テスト/職務適性テスト

Special events

3.21

卒業式

2009年度卒業式が3月21日、日本ガイシホールにおいて行われた。2,187名(学部生2,007名、大学院生180名)の卒業生を社会へ送り出した。



3.24

名古屋キャンパス 第2クラブハウス竣工式

3月24日、小雨の降る中、カルマノ学長をはじめ多くの列席者のもと第2クラブハウス竣工式が執り行われた。新しいクラブハウスは旧学生会館にて活動していた部活動・サークル団体の部室や防音設備の整った演奏室などが入り、2010年4月の新学期から使用されている。



3.27

インドネシア影絵芝居ワヤン公演

3月27日、南山大学創立50周年記念基金事業インドネシア影絵芝居ワヤン公演が名古屋キャンパスにおいて開催された。当日は約400名が来場し、普段なかなか見ることのできないインドネシア影絵芝居を鑑賞した。また影絵芝居が始まる前に南山エクステンション・カレッジにて開講されている「ジャワ・ガムラン演奏講座」の受講生達がインドネシアの民族衣装を身にまとい、ガムラン(インドネシアの伝統的な器楽合奏音楽)の音色を奏で、名古屋キャンパスG30教室はインドネシアさながらの雰囲気にも包まれた。



4.1

入学式

2010年度入学式が4月1日、日本ガイシホールにおいて行われた。カトリックの厳粛な雰囲気の中、学部生2,241名、大学院生183名の入学者を迎え入れた。



4.14

CJSフェスタ2010

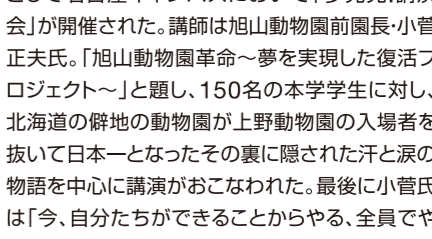
4月14日、名古屋キャンパスにおいて、外国人留学生別科(CJS)生が日頃の学びの成果を発表するCJSフェスタが開催された。様々なプログラムが組まれ、「自分の国を紹介しよう」というプログラムでは外国人留学生と日本人学部生が互いの国や文化、食べ物や音楽、ファッションについて紹介し合った。2010年春学期(1月~5月)には世界18の国と地域の留学生が日本語と日本文化を勉強している。



5.19

キャリアサポートプログラム 「夢発見!講演会」

5月19日、キャリアサポートプログラムの一環として名古屋キャンパスにおいて「夢発見!講演会」が開催された。講師は旭山動物園前園長・小菅正夫氏。「旭山動物園革命~夢を実現した復活プロジェクト~」と題し、150名の本学学生に対し、北海道の僻地の動物園が上野動物園の入場者を抜いて日本一となったその裏に隠された汗と涙の物語を中心に講演がおこなわれた。最後に小菅氏は「今、自分たちができることからやる、全員でやる、そして各自ができることをしっかりとやる。やればできる!と熱いメッセージを送った。



5.29 7.3-4

連続講座

5月29日、大学の先生や南山大学生と一緒に学ぶ楽しい体験型の講座「南山大学2010年度連続講座「大学で、未来の自分を探してみよう」(全5回)」の第1回「英語で世界のことを考えてみよう!」と第2回「裁判官を体験しよう!」が開催された。第1回は日本語厳禁空間である名古屋キャンパスD棟ワールドプラザにて中学3年生を対象に開催された。グループごとに分けられ、それぞれひとつの国について調べたことを模造紙に描き、最後に英語で発表し合った。第2回は名古屋キャンパスA棟模擬法廷教室にて小学4・5・6年生を対象に開催された。ある窃盗事件を題材に模擬裁判が進められ、受講生が裁判員となり有罪か無罪かを討議した。普段大学に足を運ぶことのない子どもたちにとって、ちよっぴり大人になった自分の姿を見つめるよいきっかけになったのではないだろうか。

7月3日(土)には第3回「ロボットやリニモはどうして動くの?」(瀬戸キャンパス開催)、7月4日(日)に第4回「博物館の不思議なモノたち」第5回「ココロの地図を描いてみよう!」が開催される。



大学連携

明治大学博物館と南山大学人類学博物館との交流・連携に関する協定書調印式

3月29日、本学人類学博物館と明治大学博物館との間で交流・連携に関する協定が締結され、その調印式が明治大学で行われた。この協定により、今後、両博物館収蔵資料に関する交換展示会、共同シンポジウムの開催など、積極的な交流が期待される。



ハワイ大学ヒロ校ー南山大学学生交流協定調印式

3月29日、本学とアメリカ合衆国のハワイ大学ヒロ校との間で学生交流協定が締結され、その調印式が行われた。ハワイ大学ヒロ校は本学と同じく教育・研究において学生と教員との密接さが特徴的であり、公立のリベラルアーツ大学と位置付けられている。また学生の出身国の多様さにおいても世界的に有名であり、多文化共生キャンパスとなっている。2010年度より交換留学生の派遣・受入が予定している。



リール・カトリック大学ー南山大学相互協力協定調印式

3月11日、本学とフランスのリール・カトリック大学との間で相互協力協定が締結され、その調印式が行われた。リール・カトリック大学はフランスで最大規模の私立大学で、350大学と国際協定を締結しており、92カ国から1,500人の留学生を受け入れるなど国際教育に力を入れている。

カトリック修道会神言会を設立母体とする本学では、「世界各地のカトリック大学との連携を強化する」との学長方針を示しており、この方針に基づき、両大学間において相互協力協定を締結することになった。将来、相互に留学生を派遣するなど積極的な交流が望まれる。

